

令和5年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田光陵高等学校

学校教育目標	1 進取の気性を持ち、知徳体が調和し、心身ともに健康な人間を育成する 2 高い専門性と国際的な視野を持ち、公益の心を持つ創造力豊かな人間を育成する 3 地域の産業や文化・環境を理解し、地域を大切に思う人間を育成する	重点目標	1 豊かな心と健やかな体の育成 2 社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成 3 学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり
目指す学校像	1 普通教育と専門教育を併せ持つ、学際的な教育を展開する高校 2 特色ある教育活動を展開し、多様な進路希望を実現できる高校 3 公益活動、自然環境の保護、及び国際化に取り組む高校 4 地域と連携・交流し、地域社会の発展を担うリーダーを育成する高校 5 スポーツ・文化活動の地域拠点校としての役割を担う高校		育てる生徒像

達成度	A・・・達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

自己評価(年間) ※数値目標・評価項目に関するアンケート結果「そう思う」「大体そう思う」の合計の平均						学校関係者評価		総括	
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	数値目標	達成度(前年)	次年度に向けた改善策	達成度(前年)		意見・要望等
1	豊かな心と健やかな体の育成	①笑顔とやさしさ、挑戦する勇気を育む教育の推進 ②端正な装いと元気で明るい挨拶の推進 ③心身の健康バランスを育てる部活動の充実	○ コロナ感染症5類移行後も、感染防止と生徒の安全安心の確保に努めた。 ○ 脱マスク生活になり、活気ある学校生活を送った。多くの生徒は、挨拶や身だしなみを意識した行動をとっている。 ○ 地域拠点校として、各部とも工夫しながら活動し、生徒は心身ともに成長することができた。	85%以上	A(A)	○ 人間関係で指導される生徒がいたため、道徳教育と情報モラル教育の充実が必要である。 ○ 生徒の心身の健康と、職員の働き方やワークライフバランスを図り、適正な運営と活性化に取り組む。	A(B)	○ 生徒の挨拶や身だしなみは良好であり、主体的に学校生活に臨んでいる姿勢が評価できる。 ○ 一部にカウンセリングを必要としている生徒の悩みや相談への理解と対応について改善の余地がある。 ○ 地域拠点校として更なる部活動の活躍を期待する。	○ 今年度の重点目標を概ね達成できました。その中でも特に「生徒の満足度」に留意しつつこれからも社会人育成力を注いでまいります。 ○ GIGAスクール構想の下で生み出された多様な教育実践の工夫を取り入れながら、デジタル技術を活用した学びと体験活動の充実を図り、授業改善に取り組んでまいります。 ○ 生徒の気持ちに寄り添い、積極的にコミュニケーションを取ることを心掛け、その特性に合わせた生徒支援と教育相談の体制を充実させる。
2	社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成	① 社会人基礎力を育てるキャリア教育の充実 ② 基礎学力の定着に資する、授業及び評価の研究推進 ③ 生徒の主体的な学びに資する、新たな授業方法の研究と実践	○ インターンシップや企業見学等を実施し、キャリア形成に活かすことができた。また資格取得にも積極的に取り組み、社会人基礎力を高めることができた。 ○ 情報科を中心にICTを活用した学習指導や生成AIに関する研修を行い、指導力向上に役立てることができた。	85%以上	A(A)	○ フューチャープロジェクトを通して、各学科間の連携と協働による、学際的な学びを推進する。 ○ 生徒の自学自習の意識を高めるとともに、ICTを活用した家庭学習の充実を図る。	A(A)	○ インターンシップや企業見学会等の実施により、生徒が自己のキャリア形成とともに、社会的課題への関心を高める取組みが必要である。 ○ フューチャープロジェクトの一環として、外部講師を招くなど、実践的な教育に取り組んでいることが評価できる。	
3	学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり	① 互いに補完しあう情報共有と生徒支援体制の構築 ② 地域を知り、貢献に資する教育活動の推進と学校を核とした地域づくり ③ ICTを活用した適時な情報発信	○ 大学や地元企業等と連携・協働した学習活動を通して、地域社会の課題解決能力を身につけることができた。 ○ 地域貢献の取組みとして、飛鳥ボランティア活動を展開し、成果をあげた。 ○ 校務や生徒・保護者への情報発信・連絡ツールとして、ICTを有効に活用することができた。	85%以上	A(B)	○ 学校運営協議会と産業教育連携協議会を適切に運用し、地域連携を進め、生徒の学びの充実を推進する。 ○ さらにICTを活用した情報発信で学校の様子が伝わるように務める。	A(B)	○ 地域と連携・協働した学びが、積極的に行われている。さらにSNS等を活用して連携拡大を期待する。 ○ 学校運営協議会や産業教育連携協議会、工業教育協力会などの連携を図り、「開かれた学校づくり」を進めている。	
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		○ スクールミッションに沿った、普通教育と専門教育の分野を超えた特色ある教育活動を実践する。 ○ 主体的・対話的・深い学びを視点とする授業改善に取り組むとともに教育DXを推進する。							